

教科	学年	教科書	上下	教科書ページ	配当時数	配当月
理科	6	大日本		8 ~ 23	9	4 ~ 5

大単元(題材名)	1. ものの燃え方		
中単元(曲名)			
主領域/領域/内容の区分	A 物質・エネルギー		
関連する道徳の内容項目			

【到達目標】

知・技	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物が燃えるときには、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができることがわかる。 ○ 物が燃えたときの空気の変化や、物が燃えることについて、わかりやすくまとめることができる。 ○ 物の燃焼の前後の空気を比べる実験を適切に行い、その結果を記録することができる。
思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物が燃えたときの空気の変化について、根拠のある予想や仮説を立てることができる。 ○ 物が燃えたときの空気の変化について、より妥当な考えをつくりだし、表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 燃焼の仕組みについて粘り強く追究する活動を通して、物が燃えたときの空気の変化を知り、燃焼の仕組みをまとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 瓶の中で物が燃え続けるには、空気が入れ替わる必要があることを理解している。	A(1)ア(ア)
	○ 空気にはおもに、窒素、酸素、二酸化炭素が含まれていることを理解している。	A(1)ア(ア)
	○ 酸素には物を燃やすはたらきがあることを理解している。	A(1)ア(ア)
	○ 気体検知管や石灰水を用いて、物の燃焼の前後の空気を比べる実験を適切に行っている。	A(1)ア(ア)
	○ 物が燃えると、空気中の酸素の一部が使われて、二酸化炭素ができることを理解している。	A(1)ア(ア)
	○ 物の燃焼の前後の空気の組成の比較実験の結果を、正確に記録している。	A(1)ア(ア)
思・判・表	○ 缶の上だけでなく、下にも穴をあけた方がよく燃えるのは、空気とどのような関係があるのか予想を立てている。	A(1)イ
	○ 空気の出入りがある方が燃えたことから、空気の出入りと物の燃え方との関係について考察している。	A(1)イ
	○ 物が燃えた後、空気中の酸素が減って二酸化炭素が増えていたことから、燃焼の仕組みについて多面的に考察している。	A(1)イ
	○ 気体検知管や石灰水を使った実験結果を総合的にとらえて考察し、物が燃えると、空気中の酸素の一部が使われて、二酸化炭素ができることを導き出している。	A(1)イ
主体的に学習に取り組む態度	○ 燃焼の仕組みについて、根拠のある予想を立てて実験し、実験内容と結果を関係づけて自分の考えをまとめている。	
	○ 物が燃えるということに興味・関心をもち、物が燃える前後の空気の変化を進んで調べようとしている。	
	○ 燃焼の実験結果をもとに考察したことについて、自分の意見を図や言葉を使って人にわかりやすく伝えるくふうをしている。	
	○ 燃焼の仕組みの学習で、わかったこととまだわからないこと、できるようになったこととまだできないことが何かを、自分で考えている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
4年	空気と水の性質
4年	金属、水、空気と温度(温まり方の違い)

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	見方・考え方
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○物を燃やした経験や、写真のろうそくが燃える様子について気付いたことを話し合う。 ○火のついたろうそくを覆って調べる。 ○ろうそくが燃えるときの空気の様子を調べる。 ○気体の中でのろうそくの様子を調べる。 	質的・実体的 /比較/関係付け/多面的 思考

理科 第6学年 評価規準

ものの燃え方と空気	2	<ul style="list-style-type: none"> ○気体検知管、石灰水の使い方を知る。 ○燃やす前と燃やした後の空気をいろいろな方法で調べる。 ◆ 実験 ○物が燃える前と燃えた後の空気には、どのような違いがあるか、結果を基に話し合う。 ★ 考察 	質的・実体的 /比較/関係付け/多面的 思考
	1	○深めよう「空気の変化を図に表してみよう！」を行う。	質的・実体的 /比較/関係付け/多面的
	1	○深めよう「線こうで調べてみよう！」を行う。	質的・実体的 /比較/関係付け/多面的
	1	◎「確かめよう」、「学んだことを生かそう」、「ふり返ろう」を行う。	質的・実体的 /比較/関係付け/多面的

理科 第6学年 評価規準

	教科	学年	教科書	<small>上F 教科書ページ</small>	配当時数	配当月
理科		6	大日本	46 ~ 65	8	6 ~ 6

大単元(題材名)	2. 植物のつくりとはたらき①日光との関わり		
中単元(曲名)			
主領域/領域/内容の区分	B 生命・地球		
関連する道徳の内容項目	C国際理解, 国際親善	D生命の尊さ/自然愛護	

【到達目標】

知・技	<ul style="list-style-type: none"> ○ 根・茎・葉には水の通り道があることがわかる。 ○ 根から取り入れられた水は、水の通り道を通して体全体に行き渡り、葉から蒸散していることがわかる。 ○ 植物も動物と同じように呼吸をしていること、日光が当たると二酸化炭素を取り入れ酸素を出していることがわかる。 ○ 植物が出し入れする気体が何かを調べる実験を適切に行い、その結果を記録することができる。 ○ 葉に日光が当たると、でんぷんができることがわかる。 ○ 日光を当てた葉と当てない葉で、でんぷんのでき方を比べる実験を適切に行い、その結果を記録することができる。
思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> ○ 植物と水や養分との関わりについて問題を見つけることができる。 ○ 予想や仮説を確かめるための実験計画を立てることができる。 ○ 葉の蒸散実験の結果から、より妥当な考えを導き出し、表現することができる。 ○ 日光とでんぷんのでき方との関係を調べる実験結果から、より妥当な考えを導き出し、表現することができる。 ○ 葉にできた養分が、植物の成長とどのように関わっているかを考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 植物の水との関わりについて粘り強く追究する活動を通して、水の通り道や蒸散について知り、まとめようとする。 ○ 植物の成長と日光との関わりについて粘り強く追究する活動を通して、葉ででんぷんをつくるはたらきについて知り、まとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 植物の水の通り道を理解している。	B(2)ア(ア)(1) (3)ア(ア)
	○ 根から取り入れられた水は、葉から蒸散していることを理解している。	B(2)ア(ア)(1) (3)ア(ア)
	○ 植物の蒸散実験を条件制御しながら適切に行い、結果を正確に記録している。	B(2)ア(ア)(1) (3)ア(ア)
	○ 植物も動物と同じように呼吸をして、酸素を取り入れ二酸化炭素を出すことを理解している。	B(2)ア(ア)(1) (3)ア(ア)
	○ 日光が当たると、植物は二酸化炭素を取り入れ酸素を出していることを理解している。	B(2)ア(ア)(1) (3)ア(ア)
	○ 気体検知管を用いて、植物が出し入れする気体が何かを適切に調べている。	B(2)ア(ア)(1) (3)ア(ア)
	○ でんぷんができるためには、葉に日光が当たることが必要であることを理解している。	B(2)ア(ア)(1) (3)ア(ア)
	○ 葉ででんぷんができるために必要な条件を調べた実験結果を、正確に記録している。	B(2)ア(ア)(1) (3)ア(ア)
思・判・表	○ 5年生の植物の発芽の学習をもとに、植物の成長にでんぷんが必要かどうかについて根拠のある予想を立てている。	B(2)イ (3)イ
	○ 立てた予想を発表したり、文章にまとめている。	B(2)イ (3)イ
	○ 友だちの意見を聞いて、自分の予想の妥当性について考えている。	B(2)イ (3)イ
	○ 予想を確かめるための実験を計画している。	B(2)イ (3)イ
	○ 植物の蒸散実験の結果をもとに、葉まで行き渡った水のゆくえについて考え、わかりやすく表現している。	B(2)イ (3)イ
主体的に学習に取り組む態度	○ 植物の水の通り道を調べる実験計画について、友だちとの話し合いを通して自らの考えを見直している。	
	○ 植物と空気との関わりについて、根拠のある予想・仮説を立てて実験し、実験内容と結果を関係付けて自分の考えをまとめている。	
	○ 植物の成長と日光の実験結果をもとに考察したことについて、自分の意見を人にわかりやすく伝えるくふうをしている。	
	○ 植物のつくりとはたらきの学習で、わかったこととまだわからないこと、できるようになったこととまだできないことが何かを、自分で考えている。	
	○ 植物に関心をもって、大切にしようとしている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
3年	身の回りの生物
4年	季節と生物
4年	天気の様子(水の自然蒸発と結露)
4年	人の体のつくりと運動
5年	植物の発芽, 成長, 結実
6年	燃焼の仕組み
6年	人の体のつくりと働き

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	見方・考え方
成長と日光の関わり	1	○ジャガイモ畑の様子を見て気付いたことを話し合う。	共通性・多様性/関係付け
	3	○日光と、葉にできる養分を関係付けて調べる。 ◆ 実験 ○植物の葉に日光が当たると、葉にデンプンができるか、結果を基に話し合う。 ★ 考察	共通性・多様性/比較/関係付け/多面的思考
	1	◎「確かめよう」、「学んだことを生かそう」、「ふり返ろう」を行う。	共通性・多様性/比較/関係付け/多面的思考

理科 第6学年 評価規準

	教科	学年	教科書	<small>上フ</small> 教科書ページ	配当時数	配当月
	理科	6	大日本	24 ~ 45	10	5 ~ 6

大単元(題材名)	3. 人やほかの動物の体のつくりとはたらき		
中単元(曲名)			
主領域/領域/内容の区分	B 生命・地球		
関連する道徳の内容項目	D 生命の尊さ/自然愛護		

【到達目標】

知・技	<ul style="list-style-type: none"> ○ ヒトの消化・吸収, 呼吸, 血液の循環に関わる体内の各器官のつくりとはたらきわかる。 ○ ヒトの体とほかの動物の体との差異点や共通点がわかる。 ○ 唾液のはたらきや, 呼吸の仕組みを調べる実験が安全にできる。 ○ ヒトや動物の体のつくりやはたらきについて, 本やコンピュータなどで必要な情報を集めることができる。
思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> ○ ヒトや動物の消化・吸収, 呼吸, 血液の循環について, 経験したことや既習内容から予想を立てることができる。 ○ 予想や仮説を確かめるための実験計画を立てることができる。 ○ 実験の結果や調べたことを多面的に考察し, 妥当な結論を導き出すことができる。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ ヒトや動物の体のつくりやはたらきについて粘り強く追究する活動を通して, 生命を維持する働きを知り, 生命を尊重しようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 食べ物は, 口, 胃, 腸などの消化管を通る間に消化・吸収され, 吸収されなかった物は排出されることを理解している。	B(1)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
	○ ヒトは呼吸によって体内に酸素を取り入れ, 体外に二酸化炭素を出していることを理解している。	B(1)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
	○ 血液は, 心臓のはたらきで体内を循環し, 養分, 酸素, 二酸化炭素などを運んでいることを理解している。	B(1)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
	○ 体内には, 生命活動を維持するための様々な臓器があること, そのはたらきを理解している。	B(1)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
	○ 唾液のはたらきや呼吸の仕組みを調べる実験を安全に行っている。	B(1)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
	○ 唾液のはたらきや呼吸の仕組みを調べる実験の結果を, 正確に記録している。	B(1)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
	○ ヒトや動物の体の構造や各器官のはたらきについて, 本やコンピュータなどで必要な情報を集めている。	B(1)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)
思・判・表	○ 燃焼の仕組みで学習したことから, 呼吸のはたらきについて予想し, 実験の計画を立てている。	B(1)イ
	○ 血液のはたらきを, 消化や呼吸などはたらきから総合的に考えて予想している。	B(1)イ
	○ 立てた予想を発表している。	B(1)イ
	○ 友だちの意見を聞いて, 自分の予想の妥当性について考えている。	B(1)イ
	○ 実験結果や本やコンピュータなどで調べたことをもとに考察し, ヒトやほかの動物は様々な臓器が関わり合いながら生命を維持していることを導き出している。	B(1)イ
主体的に学習に取り組む態度	○ ヒトや動物の体の構造やはたらきに興味・関心を持ち, 本やコンピュータなどを活用しながら調べている。	
	○ 唾液のはたらきを調べる実験結果をもとに考察したことについて, 自分の意見を人にわかりやすく伝えるくふうをしている。	
	○ 呼吸のはたらきを調べる実験計画について, 友だちとの話し合いを通して自らの考えを見直している。	
	○ ヒトや動物の体のつくりやはたらきの学習で, わかったこととまだわからないこと, できるようになったこととまだできないことが何かを, 自分で考えている。	

【関連する既習内容】

学年	年	内容
3	年	身の回りの生物
4	年	人の体のつくりと運動
5	年	植物の発芽, 成長, 結実(種子の中の養分)
5	年	動物の誕生(魚)
6	年	燃焼の仕組み

理科 第6学年 評価規準

理科 第6学年 評価規準

	教科	学年	教科書	<small>上F</small> 教科書ページ	配当時数	配当月
	理科	6	大日本	46 ~ 65	5	6 ~ 6

大単元(題材名)	2. 植物の体のつくりとはたらき② 日光と水との関わり		
中単元(曲名)			
主領域/領域/内容の区分	B 生命・地球		
関連する道徳の内容項目	C国際理解, 国際親善	D生命の尊さ/自然愛護	

【到達目標】

知・技	<ul style="list-style-type: none"> ○ 根・茎・葉には水の通り道があることがわかる。 ○ 根から取り入れられた水は、水の通り道を通して体全体に行き渡り、葉から蒸散していることがわかる。 ○ 植物も動物と同じように呼吸をしていること、日光が当たると二酸化炭素を取り入れ酸素を出していることがわかる。 ○ 植物が出し入れする気体が何かを調べる実験を適切に行い、その結果を記録することができる。 ○ 葉に日光が当たると、でんぷんができることがわかる。 ○ 日光を当てた葉と当てない葉で、でんぷんのでき方を比べる実験を適切に行い、その結果を記録することができる。
思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> ○ 植物と水や養分との関わりについて問題を見つけることができる。 ○ 予想や仮説を確かめるための実験計画を立てることができる。 ○ 葉の蒸散実験の結果から、より妥当な考えを導き出し、表現することができる。 ○ 日光とでんぷんのでき方との関係を調べる実験結果から、より妥当な考えを導き出し、表現することができる。 ○ 葉にできた養分が、植物の成長とどのように関わっているかを考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 植物の水との関わりについて粘り強く追究する活動を通して、水の通り道や蒸散について知り、まとめようとする。 ○ 植物の成長と日光との関わりについて粘り強く追究する活動を通して、葉ででんぷんをつくるはたらきについて知り、まとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 植物の水の通り道を理解している。	B(2)ア(ア)(1) (3)ア(ア)
	○ 根から取り入れられた水は、葉から蒸散していることを理解している。	B(2)ア(ア)(1) (3)ア(ア)
	○ 植物の蒸散実験を条件制御しながら適切に行い、結果を正確に記録している。	B(2)ア(ア)(1) (3)ア(ア)
	○ 植物も動物と同じように呼吸をして、酸素を取り入れ二酸化炭素を出すことを理解している。	B(2)ア(ア)(1) (3)ア(ア)
	○ 日光が当たると、植物は二酸化炭素を取り入れ酸素を出していることを理解している。	B(2)ア(ア)(1) (3)ア(ア)
	○ 気体検知管を用いて、植物が出し入れする気体が何かを適切に調べている。	B(2)ア(ア)(1) (3)ア(ア)
	○ でんぷんができるためには、葉に日光が当たることが必要であることを理解している。	B(2)ア(ア)(1) (3)ア(ア)
	○ 葉ででんぷんができるために必要な条件を調べた実験結果を、正確に記録している。	B(2)ア(ア)(1) (3)ア(ア)
思・判・表	○ 5年生の植物の発芽の学習をもとに、植物の成長にでんぷんが必要かどうかについて根拠のある予想を立てている。	B(2)イ (3)イ
	○ 立てた予想を発表したり、文章にまとめている。	B(2)イ (3)イ
	○ 友だちの意見を聞いて、自分の予想の妥当性について考えている。	B(2)イ (3)イ
	○ 予想を確かめるための実験を計画している。	B(2)イ (3)イ
	○ 植物の蒸散実験の結果をもとに、葉まで行き渡った水のゆくえについて考え、わかりやすく表現している。	B(2)イ (3)イ
主体的に学習に取り組む態度	○ 植物の水の通り道を調べる実験計画について、友だちとの話し合いを通して自らの考えを見直している。	
	○ 植物と空気との関わりについて、根拠のある予想・仮説を立てて実験し、実験内容と結果を関係付けて自分の考えをまとめている。	
	○ 植物の成長と日光の実験結果をもとに考察したことについて、自分の意見を人にわかりやすく伝えるくふうをしている。	
	○ 植物のつくりとはたらきの学習で、わかったこととまだわからないこと、できるようになったこととまだできないことが何かを、自分で考えている。	
	○ 植物に関心をもって、大切にしようとしている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
3年	身の回りの生物
4年	季節と生物
4年	天気の様子(水の自然蒸発と結露)
4年	人の体のつくりと運動
5年	植物の発芽, 成長, 結実
6年	燃焼の仕組み
6年	人の体のつくりと働き

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	見方・考え方
成長と日光の関わり	1	○ジャガイモ畑の様子を見て気付いたことを話し合う。	共通性・多様性/関係付け
	3	○日光と、葉にできる養分を関係付けて調べる。 ◆ 実験 ○植物の葉に日光が当たると、葉にデンプンができるか、結果を基に話し合う。 ★ 考察	共通性・多様性/多面的に考える
	1	◎「確かめよう」、「学んだことを生かそう」、「ふり返ろう」を行う。	共通性・多様性/多面的に考える

理科 第6学年 評価規準

	教科	学年	教科書	<small>上</small> 教科書ページ	配当時数	配当月
	理科	6	大日本	66 ~ 81	8	7 ~ 7

大単元(題材名)	5 生物と地球環境		
中単元(曲名)			
主領域/領域/内容の区分	B 生命・地球		
関連する道徳の内容項目	D 生命の尊さ/自然愛護		

【到達目標】

知・技	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生物は、「食べる・食べられる」という関係でつながっていることがわかる。 ○ 動物の食べ物のもとをたどると、自分で養分をつくる生物に行きつくことがわかる。 ○ 生物どうしの「食べる・食べられる」という一連の関係を食物連鎖ということがわかる。 ○ 生物は、水や空気を通して関わり合っていることがわかる。 ○ 顕微鏡を正しく使い、水中の小さな生物を観察することができる。 ○ 本やコンピュータなどの様々な資料を利用して、必要な情報を集めることができる。
思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生物と食べ物、生物と空気や水との関わりを調べ、自然界のつながりを総合的にとらえ、生物と環境との関係を図や言葉を使ってわかりやすくまとめることができる。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生物と環境との関わりについて粘り強く追究する活動を通して、生物が水や空気を通して周囲の環境と関わって生きていることや、生物間には「食べる・食べられる」という関係があることを知り、まとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 生物は、「食べる・食べられる」という関係でつながっていることを理解している。	B(3)ア(ア)(イ)
	○ 動物の食べ物のもとをたどると、自分で養分をつくる生物に行きつくことを理解している。	B(3)ア(ア)(イ)
	○ 生物どうしの「食べる・食べられる」という一連の関係を食物連鎖ということを理解している。	B(3)ア(ア)(イ)
	○ 顕微鏡を正しく使い、水中の小さな生物を観察している。	B(3)ア(ア)(イ)
	○ 生物は、水や空気を通して関わり合っていることを理解している。	B(3)ア(ア)(イ)
	○ 本やコンピュータなどを活用し、必要な情報を集めている。	B(3)ア(ア)(イ)
思・判・表	○ 今までに学習したことをもとに、生物が食べ物や空気、水を通してどのように関わり合っているのかということや、水と生物の関係について、根拠のある予想を立てている。	B(3)イ
	○ 立てた予想を発表したり、文章にまとめている。	B(3)イ
	○ 友だちの意見を聞いて、自分の予想の妥当性について考えている。	B(3)イ
	○ 生物の食べ物を通した関わり合いについて、様々な動物の食べ物を調べた結果をもとに発表し合い、多面的に考察している。	B(3)イ
	○ 考察から、生物と食べ物、空気、水との関わりを総合的に導き出してまとめている。	B(3)イ
主体的に学習に取り組む態度	○ 生物と食べ物の関わりについて粘り強く追究し、食物連鎖について考察している。	
	○ 生物と空気との関わりを調べて考察したことを、人にわかりやすく伝えるくふうをしている。	
	○ 生物と環境との関わりでの学習で、わかったこととまだわからないこと、できるようになったこととまだできないことが何かを、自分で考えている。	
	○ 生物に関心をもって、大切にしようとしている。	

【関連する既習内容】

学年	年	内容
3	年	身の回りの生物
4	年	季節と生物
5	年	動物の誕生
6	年	植物の養分と水の通り道
6	年	人の体のつくりと働き

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	見方・考え方
食べ物を通した生物どうしの関わり	1	○生物は生きていくために何を食べているのか考え、気付いたことを話し合う。 ○メダカの食べ物を調べる。	共通性・多様性/比較/関係付け
	2	○生物同士の関わりを食べ物と関係付けて調べる。 ◆ 調べる1 ○地球上の生物は、食べ物を通してどのように関わり合っているか、結果を基に話し合う。 ★ 考察	共通性・多様性/多面的に考える
空気を通した生物どうしの関わり	2	○植物が出し入れする気体を、条件を整えて調べる。 ◆ 実験 ○植物は、空気を通して動物とどのように関わっているか、結果を基に話し合う。 ★ 考察	共通性・多様性/多面的に考える
水を通した生物どうしの関わり	2	○生物同士の関わりと姿を変える地球上の水を関係付けて調べる。 ◆ 調べる2 ○地球上の水は姿を変えながら、生物とどのように関わっているか、結果を基に話し合う。 ★ 考察	共通性・多様性/多面的に考える
	1	◎「確かめよう」、「学んだことを生かそう」、「ふり返ろう」を行う。	共通性・多様性/多面的に考える

理科 第6学年 評価規準

	教科	学年	教科書	<small>上フ</small> 教科書ページ	配当時数	配当月
	理科	6	大日本	112 ~ 121	7	9 ~ 9

大単元(題材名)	6. 月と太陽		
中単元(曲名)			
主領域/領域/内容の区分	B 生命・地球		
関連する道徳の内容項目	C 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度/国際理解, 国際親善		

【到達目標】

知・技	<ul style="list-style-type: none"> ○ 月は太陽の光を受けて輝いていることと、月の形の見え方が日によって変化するのは、月と太陽の位置が関係していることがわかる。 ○ 月の形の変化や月と太陽の位置について、安全に観察したり記録したりすることができる。 ○ 月の形の見え方と太陽の位置との関係を調べる実験を適切に行い、その結果を記録することができる。
思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> ○ 予想や仮説を確かめるための実験計画を立てることができる。 ○ 月の形の変化を、太陽、月、地球の位置と関係づけてとらえ、その関係を説明することができる。 ○ 月の形の見え方と太陽の位置との関係を調べる実験の結果から、より妥当な考えを導き出し、表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 月の形とその変化について粘り強く追究する活動を通して、月の形の見え方と太陽の位置の関係について知り、まとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 月は太陽の光を受けて輝いていることを理解している。	B(5)ア(ア)
	○ 月の形の見え方が日によって変化するのは、月と太陽の位置が関係していることを理解している。	B(5)ア(ア)
	○ 月と太陽の位置について調べる観察を安全に行い、観察結果を正確に記録している。	B(5)ア(ア)
	○ 月の形の見え方と太陽の位置との関係を調べる実験を適切に行い、結果を正確に記録している。	B(5)ア(ア)
思・判・表	○ 友だちの意見を聞いて、自分の予想の妥当性について考えている。	B(5)イ
	○ 予想を確かめるための実験を計画している。	B(5)イ
	○ 月と太陽の位置について調べた観察結果をもとに、図に描いて正確にわかりやすく表現している。	B(5)イ
	○ 月の形が変化することを、月と太陽の位置関係が変化することと関係づけてとらえ、月の形が変化して見える理由を、図や言葉でわかりやすく表現している。	B(5)イ
主体的に学習に取り組む態度	○ 月の形の見え方が日によって変化する理由について、根拠のある予想・計画を立てて実験し、実験内容と結果とを関係づけて自分の考えをまとめている。	
	○ 月の形の見え方と太陽の位置との関係を調べる実験計画について、友だちとの話し合いを通して自らの考えを見直している。	
	○ 月の形の見え方と太陽の位置との関係を調べる実験結果をもとに考察したことについて、自分の意見を人にわかりやすく伝えるくふうをしている。	
	○ 月と太陽の学習で、わかったこととまだわからないこと、できるようになったこととまだできないことが何かを、自分で考えている。	

【関連する既習内容】

学年	年	内容
3	年	太陽と地面の様子
4	年	月と星
	年	

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	見方・考え方
月の形とその変化	3	○教科書p.92～93の写真を見て気付いたことを話し合う。 ○月と太陽の位置を調べる。	時間的・空間的/関係付け
	2	○月の形の見え方と太陽の位置の関係を調べる。 ◆ 実験 ○月の形の見え方が日によって変わるの、どうしてか、結果を基に話し合う。 ★ 考察	時間的・空間的/比較/関係付け/多面的思考
	1	○深めよう「月をくわしく調べよう!」を行う。	時間的・空間的/比較/関係付け/多面的思考
	1	○「確かめよう」、「学んだことを生かそう」、「ふり返ろう」を行う。	時間的・空間的/比較/関係付け/多面的思考

理科 第6学年 評価規準

	教科	学年	教科書	<small>上フ</small> 教科書ページ	配当時数	配当月
理科		6	大日本	92 ~ 111	11	9 ~ 10

大単元(題材名)	7. 水よう液の性質	
中単元(曲名)		
主領域/領域/内容の区分	A 物質・エネルギー	
関連する道徳の内容項目		

【到達目標】

知・技	<ul style="list-style-type: none"> ○ 溶けているもの、色、においなどの性質から、水溶液を分けることができる。 ○ 水溶液には気体や固体が溶けているものがあり、酸性・中性・アルカリ性に分けられることがわかる。 ○ 水溶液を扱う実験を安全に行い、その結果を正確に記録することができる。
思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> ○ 予想や仮説を確かめるための実験計画を立てることができる。 ○ 金属が溶けた水溶液を加熱して得られるものの性質から、金属が水溶液によって質的に変化していることを説明することができる。 ○ 水溶液の性質を調べる実験の結果から、より妥当な考えを導き出し、表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水溶液の性質について粘り強く追究する活動を通して、水溶液の性質やはたらきの違いについて知り、まとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 水溶液には、気体が溶けているものと固体が溶けているものがあることを理解している。	A(2)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 水溶液は、その性質によって酸性・アルカリ性・中性に分けられることを理解している。	A(2)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 水溶液には、金属を変化させるものがあることを理解している。	A(2)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ リトマス紙を使って水溶液の性質を調べ、その結果を記録している。	A(2)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 水溶液を扱う際の注意事項を知り、正しく取り扱っている。	A(2)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 水溶液を扱う実験を安全に行い、その結果を正確に記録している。	A(2)ア(ア)(イ)(ウ)
思・判・表	○ 友だちの意見を聞いて、自分の予想の妥当性について考えている。	A(2)イ
	○ リトマス紙を使って水溶液の性質を調べ、赤色と青色のリトマス紙のそれぞれの色の変化を表にわかりやすくまとめている。	A(2)イ
	○ 金属が溶けた水溶液を加熱して得られるものの性質から、金属が水溶液によって質的に変化していることを関係づけてわかりやすく表現している。	A(2)イ
主体的に学習に取り組む態度	○ 5種類の水溶液は、どうすれば区別することができるのか、根拠のある予想を立てて実験の計画を立てている。	
	○ 水溶液の性質を調べる実験計画について、友だちとの話し合いを通して自らの考えを見直している。	
	○ 水溶液の性質を調べる実験結果をもとに考察したことについて、自分の意見を人にわかりやすく伝えるくふうをしている。	
	○ 水溶液の性質の学習で、わかったこととまだわからないこと、できるようになったこととまだできないことが何かを、自分で考えている。	

【関連する既習内容】

学年	年	内容
5	年	物の溶け方
6	年	燃焼の仕組み

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	見方・考え方
1 水溶液にとけているもの	1	○身の回りやこれまで実験で使ったもので、どのような水溶液があるかを話し合う。 ○水溶液を調べる。	質的・実体的/比較
	2	○炭酸水に溶けているものを、いろいろな方法で調べる。 ◆ 実験1 励行 ○炭酸水には何が溶けているか、結果を基に話し合う。 ★ 考察	質的・実体的/比較/関係付け/多面的思考
	1	○深めよう「二酸化炭素を水にとかしてみよう!」を行う。	質的・実体的/比較/関係付け/多面的思考
2 酸性・中性・アルカリ性の水よう液	1	○リトマス紙の使い方を知る。 ○水溶液が何性か調べる。	質的・実体的/比較/関係付け/多面的思考
	1	○深めよう「ムラサキキャベツ液で調べてみよう!」を行う。	質的・実体的/比較/関係付け/多面的思考
3 金属をとかす水よう液	2	○酸性の水溶液に金属を入れる。 ○アルミニウムがとけた液体を熱して調べる。	質的・実体的/比較/関係付け/多面的思考
	2	○液体を熱したときに出てきたものの性質をいろいろな方法で調べる。 ◆ 実験2 ○出てきたものはアルミニウムか、結果を基に話し合う。 ★ 考察	質的・実体的/比較/関係付け/多面的思考
	1	◎「確かめよう」、「学んだことを生かそう」、「ふり返ろう」を行う。	質的・実体的/比較/関係付け/多面的思考

理科 第6学年 評価規準

教科	学年	教科書	上F 教科書ページ	配当時数	配当月				
理科	6	大日本	122 ~ 151	12	10 ~ 11				

大単元(題材名)	8. 大地のつくりと変化		
中単元(曲名)			
主領域/領域/内容の区分	B 生命・地球		
関連する道徳の内容項目	C 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度/国際理解, 国際親善	D 生命の尊さ/自然愛護	

【到達目標】

知・技	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大地は、礫、砂、泥、火山灰などからできていて、それぞれの層は、広い範囲で積み重なっていることがわかる。 ○ 地層は、流れる水のはたらきや火山の噴火によってできることがわかる。 ○ 大地は、火山の噴火や地震によってよすがが変化することがわかる。 ○ 地層のよすを安全に観察したり、層に含まれている礫や砂などを採取して調べることができる。 ○ 火山活動や地震による災害や防災・減災活動などについて、本やコンピュータ、博物館などを活用して必要な情報を集めることができる。
思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> ○ 予想や仮説を確かめるための実験計画を立てることができる。 ○ 層の構成物などから、流れる水のはたらきでできた層か、火山のはたらきでできた層かを導き出すことができる。 ○ 地層を観察した結果から、より妥当な考えを導き出し、表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大地のつくりと変化について粘り強く追究する活動を通して、地層のでき方や火山活動や地震による大地の変化について知り、まとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 大地は、礫、砂、泥、火山灰などからできていることを理解している。	B(4)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 地層は、流れる水のはたらきによって運搬された礫や、砂、泥などが、海底などに層になって積み重なり、それが繰り返されることによってできることを理解している。	B(4)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 地層から見つかる動物や植物の一部、動物のすみか、足あとなどを化石ということを理解している。	B(4)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 地層のよすを安全に観察したり、層に含まれている礫や砂などを採取して調べ、その結果をわかりやすく記録している。	B(4)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 博物館や科学館、本やコンピュータなどを活用して必要な情報を集め、その結果をわかりやすくまとめている。	B(4)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 火山活動や地震によって大地が変化することを理解している。	B(4)ア(ア)(イ)(ウ)
思・判・表	○ 友だちの意見を聞いて、自分の予想の妥当性について考えている。	B(4)イ
	○ 層の構成物からその地層のでき方を予想し、わかりやすくまとめて表現している。	B(4)イ
	○ 博物館や本やコンピュータなどで調べたことから、火山活動や地震と大地が変化することに関係づけてわかりやすく表現している。	B(4)イ
主体的に学習に取り組む態度	○ 地層のでき方について、根拠のある予想・仮説を立てて実験し、実験内容と結果とを関係づけて自分の考えをまとめている。	
	○ 地層のでき方を調べる実験計画について、友だちとの話し合いを通して自らの考えを見直している。	
	○ 地層のでき方を調べる実験結果をもとに考察したことについて、自分の意見を人にわかりやすく伝えるくふうをしている。	
	○ 大地のつくりと変化の学習で、火山活動や地震によって大地が変化することを知り、防災や減災対策で自分たちにできることを考え、取り組もうとしている。	

【関連する既習内容】

学年	内容
4年	雨水の行方と地面の様子
5年	流れる水の働きと土地の変化

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	見方・考え方
土地をつくっているもの	1	○地面の下の様子を見て気付いたことを話し合う。	時間的・空間的/比較/関係付け
	3	○縞模様に見える土地の様子をいろいろな方法で調べる。 ◆ 観察1 ○土地が、縞模様に見えるのはどうしてか、結果を基に話し合う。 ★ 考察	時間的・空間的/比較/関係付け/多面的思考
地層のでき方	2	○流れる水の働きと地層のでき方の関係を調べる。 ◆ 実験ア ○地層は、どのようにできるのか、結果を基に話し合う。 ★ 考察	時間的・空間的/比較/関係付け/多面的思考
	2	○火山の働きと地層のでき方の関係を調べる。 ◆ 観察イ ○流れる水の働きでできた岩石には、礫岩や砂岩、泥岩があることを知る。	時間的・空間的/比較/関係付け/多面的思考
火山活動や地震による土地の変化	3	○火山活動や地震による土地の変化を、いろいろな方法で調べる。 ◆ 調べる ○火山活動や地震によって、土地は、どのように変化するのか、結果を基に話し合う。 ★ 考察 ○防災「火山活動や地震による被害とその防災」を行う。 ○防災「火山活動や地震の被害への備え」を行う。	時間的・空間的/比較/関係付け/多面的思考
	1	◎「確かめよう」、「学んだことを生かそう」、「ふり返ろう」を行う。	時間的・空間的/比較/関係付け/多面的思考

理科 第6学年 評価規準

	教科	学年	教科書	上F 教科書ページ	配当時数	配当月
理科		6	大日本	152 ~ 167	10	11 ~ 12

大単元(題材名)	9. てこのはたらき		
中単元(曲名)			
主領域/領域/内容の区分	A 物質・エネルギー		
関連する道徳の内容項目	C 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度/国際理解, 国際親善	D 生命の尊さ	

【到達目標】

知・技	<ul style="list-style-type: none"> ○ 支点・力点・作用点の用語の意味と、てこを利用した道具の仕組みがわかる。 ○ てこを利用して、小さな力で物を持ち上げることができる。 ○ 実験の結果を、正確にわかりやすく記録することができる。
思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> ○ てこの規則性に関する課題について、根拠のある予想や仮説を立てることができる。 ○ 予想や仮説を確かめるための実験計画を立てることができる。 ○ 実験の結果を多面的に考察し、妥当な結論を導き出すことができる。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ てこについて粘り強く追究する活動を通して、身の回りにある様々な道具にてこが利用されていることを知り、てこの規則性やはたらきをまとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

	対応する学習指導要領の項目	
知・技	○ てこには、3つの点(支点・力点・作用点)があることを理解している。	A(3)ア(ア)(イ)
	○ てこの仕組みを理解している。	A(3)ア(ア)(イ)
	○ てこを利用して物を持ち上げるときの力は、支点から力点や作用点までの位置が関係していることを理解している。	A(3)ア(ア)(イ)
	○ てこの腕を傾けるはたらきは、おもりの重さ(力の大きさ)×支点からの距離で表せることを理解している。	A(3)ア(ア)(イ)
	○ 棒の傾いている方が大きな力がはたらいていることと、棒が水平になったときは左右の力の大きさが同じになっていることを理解している。	A(3)ア(ア)(イ)
	○ てこを扱う実験を安全に行っている。	A(3)ア(ア)(イ)
	○ てこの規則性を調べる実験の結果を、正確に記録している。	A(3)ア(ア)(イ)
思・判・表	○ 支点から力点や作用点までの距離を変えたときの手応えの変化をもとに、てこの規則性について根拠のある予想を立てている。	A(3)イ
	○ 立てた予想を発表したり、文章にまとめている。	A(3)イ
	○ 友だちの意見を聞いて、自分の予想の妥当性について考えている。	A(3)イ
	○ 予想を確かめるための実験を計画している。	A(3)イ
	○ てこの3つの点の距離を変えたときの手応えの違いについて、結果をもとに発表し合い、3つの点の位置と手応えとの関係について多面的に考察している。	A(3)イ
	○ 考察から、棒を傾けるはたらきの大きさは、「力点にかかるおもりの重さ」と「支点からの距離」の積になることを導き出している。	A(3)イ
主体的に学習に取り組む態度	○ てこの規則性について、根拠のある予想・仮説を立てて実験し、実験内容と結果とを関係づけて自分の考えをまとめている。	
	○ てこの実験計画について、友だちとの話し合いを通して自らの考えを見直している。	
	○ てこの実験結果をもとに考察したことについて、自分の意見を人にわかりやすく伝えるくふうをしている。	
	○ てこのはたらきの学習で、わかったこととまだわからないこと、できるようになったこととまだできないことが何かを、自分で考えている。	

【関連する既習内容】

学年	年	内容
3	年	風とゴムの力の働き
5	年	振り子の運動

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	見方・考え方
てこのはたらき	4	○棒をどのように使うと、小さな力で大きな力を出すことができるか、気付いたことを話し合う。 ○てこの3つの点を知る。 ○力点や作用点の位置を変えたときの手ごたえを調べる。 ○実験用てこを使って、うでの傾きを調べる。	量的・関係的/比較
	2	○実験用てこのうでが水平になってつり合うときのきまりを条件を整えて調べる。 ◆ 実験 ○実験用てこのうでが水平になってつり合うときには、どのようなきまりがあるのか、結果を基に話し合う。 ★ 考察	量的・関係的/比較/関係付け/多面的思考
	2	○深めよう「てこのはたらきを利用した道具について調べてみよう!」を行う。	量的・関係的/比較/関係付け/多面的思考
	1	○作ってみよう「つり合いを利用したおもちゃを作ってみよう!」を行う。	量的・関係的/比較/関係付け/多面的思考
	1	◎「確かめよう」、「学んだことを生かそう」、「ふり返ろう」を行う。	量的・関係的/比較/関係付け/多面的思考

理科 第6学年 評価規準

	教科	学年	教科書	<small>上F</small> 教科書ページ	配当時数	配当月
	理科	6	大日本	168 ~ 187	10	1 ~ 2

大単元(題材名)	10. 私たちの生活と電気		
中単元(曲名)			
主領域/領域/内容の区分	A 物質・エネルギー		
関連する道徳の内容項目	D自然愛護		

【到達目標】

知・技	<ul style="list-style-type: none"> ○ 電気は、ついたり蓄えたりすることができ、光、音、熱、運動など様々な形に変えて利用できることがわかる。 ○ 身の回りには、電気を光、音、熱、運動などに変えて利用している道具がたくさんあることがわかる。 ○ 手回し発電機やコンデンサーを使って実験を行い、その結果を正確に記録することができる。
思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> ○ 予想や仮説を確かめるための実験計画を立てることができる。 ○ 豆電球と発光ダイオードの明かりのついている時間の違いから、豆電球よりも発光ダイオードの方が使用する電気の量が少ないことを説明することができる。 ○ 電気を何に変えて利用しているのかを調べる実験の結果から、より妥当な考えを導き出し、表現することができる。 ○ プログラミングの学習で、プログラミングをした目的やその内容をわかりやすく説明することができる。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 電気の利用について粘り強く追究する活動を通して、電気を光、音、熱、運動などに変えて利用していることについて知り、まとめようとする。 ○ プログラミングの学習で、目的に合ったセンサーを選び、粘り強くプログラムを完成させようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 電気は、ついたり蓄えたりすることができ、光、音、熱、運動など様々な形に変えて利用できることを理解している。	A(4)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 身の回りには、電気を光、音、熱、運動などに変えて利用している道具がたくさんあることを理解している。	A(4)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 手回し発電機やコンデンサー、光電池などを、安全に正しく取り扱っている。	A(4)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 手回し発電機やコンデンサーを適切に使って実験を行い、その結果を正確に記録している。	A(4)ア(ア)(イ)(ウ)
思・判・表	○ 友だちの意見を聞いて、自分の予想の妥当性について考えている。	A(4)イ
	○ 豆電球と発光ダイオードの明かりのついている時間を電気の使用量に関係づけて考え、豆電球よりも発光ダイオードの方が使用する電気の量が少ないことを説明している。	A(4)イ
	○ プログラミングの学習で、エネルギーを効率よく使用するためのプログラムを考えている。	A(4)イ
主体的に学習に取り組む態度	○ 発電・蓄電について調べる実験結果をもとに考察したことについて、自分の意見を人にわかりやすく伝えるくふうをしている。	
	○ エネルギーの変換を調べる実験計画について、友だちとの話し合いを通して自らの考えを見直している。	
	○ 豆電球と発光ダイオードの点灯時間について、根拠のある予想・仮説を立てて実験し、実験内容と結果とを関係づけて自分の考えをまとめている。	
	○ プログラムが計画通りに動かなかったとき、計画を見直して粘り強くプログラムを完成させている。	
	○ 電気の利用の学習で、わかったこととまだわからないこと、できるようになったこととまだできないことが何かを、自分で考えている。	

【関連する既習内容】

学年	年	内容
3	年	電気の通り道
4	年	電気の働き
5	年	電流がつくる磁力

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	見方・考え方
わたしたちの生活と電気	1	○身の回りで使われている電気について、気付いたことを話し合う。 ○手回し発電機、光電池の使い方を知る。 ○手回し発電機や光電池を使って発電する。	量的・関係の/関係付け
	1	○コンデンサーの使い方を知る。 ○コンデンサーに電気をためる。	量的・関係の/比較/関係付け/多面的思考
	1	○発光ダイオードや発熱を調べる装置の使い方を知る。 ○電気の変換について調べる。	量的・関係の/比較/関係付け/多面的思考
	1	○作ってみよう「風力発電機を作ってみよう!」を行う。	量的・関係の/比較/関係付け/多面的思考
	2	○豆電球と発光ダイオードの明かりのついている時間を条件を整えて調べる。 ◆ 実験 ○豆電球と発光ダイオードで、使う電気の量にどのような違いがあるのか、結果を基に話し合う。 ★ 考察	量的・関係の/比較/関係付け/多面的思考
	3	○プログラミングを利用して、プログラミングを体験する。	量的・関係の/比較/関係付け/多面的思考
	1	◎「確かめよう」、「学んだことを生かそう」、「ふり返ろう」を行う。	量的・関係の/比較/関係付け/多面的思考

理科 第6学年 評価規準

	教科	学年	教科書	<small>上F</small> 教科書ページ	配当時数	配当月
	理科	6	大日本	188 ~ 197	7	2 ~ 3

大単元(題材名)	11.かけがえのない地球環境		
中単元(曲名)			
主領域/領域/内容の区分	B 生命・地球		
関連する道徳の内容項目	D生命の尊さ/自然愛護/よりよく生きる喜び		

【到達目標】

知・技	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生物は、環境と関わり合って生きていることがわかる。 ○ 生物が互いに関わり合って生きていることと、ヒトも環境の一部であることがわかる。 ○ ヒトが環境に与えている影響についてわかる。 ○ ヒトが環境に与える影響を多面的に考え、どのように地球環境と関わっていけばよいのかを調べることができる。 ○ ヒトと環境との関わりについて、本やコンピュータなどから必要な情報を集めることができる。
思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> ○ ヒトと環境との関わりについて関心をもち、進んで環境問題について調べ、自分にできることを多面的に考えることができる。 ○ ヒトがどのように地球環境と関わっていけばよいのかを多面的に考え、発表することができる。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生物と環境について粘り強く追究する活動を通して、ヒトの生活が環境に与える影響について知り、これから私たちが環境とよりよく関わっていくためにはどのようにすればよいかを考えてまとめようとする。

※「主体的に学習に取り組む態度」は方向目標を示しています。

【評価規準】

		対応する学習指導要領の項目
知・技	○ 生物は、水や空気を通して環境と関わり合って生きていることを理解している。	B(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 生物は、食べる・食べられるという関係でつながっていることを理解している。	B(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 生物が互いに関わり合って生きていることと、ヒトも環境の一部であることを理解している。	B(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ ヒトが環境に与えている影響について理解している。	B(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ これまでに学習した内容や新たに集めた情報をもとにして、ヒトと環境とのつながりを多面的にまとめている。	B(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ ヒトが環境に与える影響を多面的に考え、どのように地球環境と関わっていけばよいのかを調べている。	B(3)ア(ア)(イ)(ウ)
	○ 本やコンピュータなどを活用して、環境問題などについての必要な情報を集めている。	B(3)ア(ア)(イ)(ウ)
思・判・表	○ 既習内容などをもとに、ヒトと環境との関わりについて多面的にとらえ、その関わりをわかりやすくまとめている。	B(3)イ
	○ 友だちの意見を聞いて、自分の予想の妥当性について考えている。	B(3)イ
	○ ヒトがどのように地球環境と関わっていけばよいのかを多面的に考え、わかりやすく発表している。	B(3)イ
主体的に学習に取り組む態度	○ ヒトと環境との関わりについて、根拠のある予想・仮説を立てて調べ、自分の考えをまとめている。	
	○ ヒトと環境との関わりについて予想したことを、友だちとの話し合いを通して見直している。	
	○ これから私たちがどのように地球環境と関わっていけばよいのかを考察し、自分の意見を人にわかりやすく伝えるくふうをしている。	
	○ 生物と環境の学習で、わかったこととまだわからないこと、できるようになったこととまだできないことが何かを、自分で考えている。	

【関連する既習内容】

学年	年	内容
3	年	身の回りの生物
4	年	季節と生物
4	年	天気の様子(水の自然蒸発と結露)
5	年	流れる水の働きと土地の変化
6	年	電気の利用
6	年	燃焼の仕組み
6	年	人の体のつくりと働き
6	年	植物の養分と水の通り道

【学習活動】

小単元名	時数	学習活動	見方・考え方
地球環境を守る	1	○写真の川の様子について気付いたことを話し合う。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
	3	○地球環境を守るための取り組みをいろいろな方法で調べる。 ◆ 調べる ○かけがえのない地球環境を守るため、私たちはどのような行動をすればよいのか、結果を基に話し合う。 ★ 考察	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える
	3	○これまでの自分たちの生活を振り返って、これからどのような行動をしていけばよいのか考え、発表する。	共通性・多様性/関係付け/多面的に考える